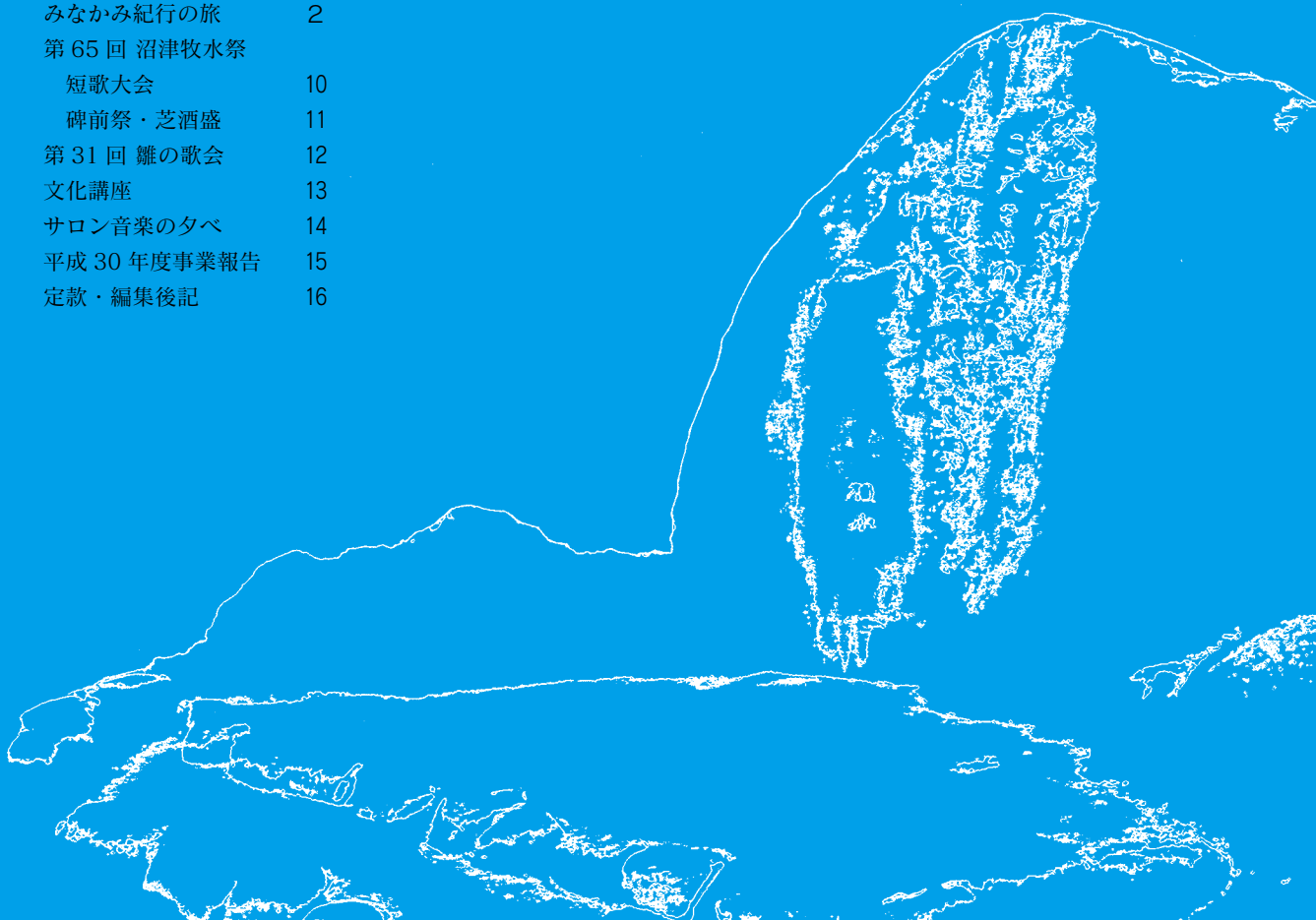
緑山河

第32号

令和元年５月15日
発　行
公益社団法人沼津牧水会

目　次

みなかみ紀行の旅　2
第 65 回 沼津牧水祭
　短歌大会　10
　碑前祭・芝酒盛　11
第 31 回 雛の歌会　12
文化講座　13
サロン音楽の夕べ　14
平成 30 年度事業報告　15
定款・編集後記　16



「みなかみ紀行の旅」顚末記

沼津牧水会理事
長澤靖夫
元沼津市教育長

「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。」で始まる彼の有名な川端康成の小説『雪国』に出てくるトンネルは、上越線の群馬県と新潟県を結ぶ清水トンネルのことである。高く聳える谷川岳の中腹までループ線を引いて両側の高度を上げて貫いて作ったこのトンネルは、北陸トンネルが出来るまでのおよそ三十年間日本一長いトンネルであった。

私が谷川や一ノ倉を訪れるため、清水トンネルの群馬県水上側の土合駅に降り立ったのは、二十歳直前の時であった。

何年か経て上越線の複線化に伴い、新清水トンネルが開通し、これまでの清水トンネルは上越線上り専用となった。下り専用の新清水トンネルは清水トンネルよりはるかに低い所に設置された。したがって、上りホームは地上、下りホームは地下となった。その高低差はビル三、四十階に相当し、地下ホームから駅舎に行くには五百段近くの階段を上らなければたどり着かない。そのような世界的にも珍しい高低差のある土合駅に興味を持ち、水上の地を再び訪れたのは、二十代最後の年であった。

その後、ある大会や会議の開催地として、また友人たちとの旅行先として、水上は十指に余る訪れの場所であった。私にとっては何か故郷のような温もりを感じる水上の地で「第十二回若山牧水顕彰全国大会」みなかみ大会が開催されると聞き心待ちにしていた。

「若山牧水顕彰全国大会」や牧水に因むイベントなどが毎年牧水ゆかりの地で開催されている。これまでの十数年、「沼津牧水会」は年に一度の割合で、その何れかに十名前後の会員で参加してきている。その際、折角遠方の地を訪れるので一、二泊加えてこれまで実施して来た。

今回も二泊三日で「みなかみ紀行の旅」と称して計画を立てた。計画立案は毎回私の役目であるので、理事長等の意見を聞きながら訪れる場所を模索した。私は、自分が過去訪れて、ここなら参加者に満足してもらえるだろう、と思う所のみ組み入れる行程作りを基本コンセプトとしている。したがって今回もそのような考えの下、旅行日程を作成した。

今回の旅は、北関東での開催と比較的近回りの所だったので、バスをチャーターして訪れることにした。サロン付二十七人定員の大型バスを仕立て、全行程をバスで巡るゆとりのある旅程とした。行程表がほぼ出来上り、事務局から理事長に伺いを立てたところ、牧水顕彰の旅なのに牧水歌碑を一つも巡らないのかと質されたとの報告があった。

実は、四、五年前友人達と権現峠（今井峠）をレンタカーで走行している時、同乗していた友人の一人が偶然一つの歌碑を見つけた。道路脇に車を止めて見てみると、牧水の歌碑で有り、驚くとともに新たな発見をした気分になった記憶があった。そこで今回の行程の中で、その権現峠を通過するので、サプライズとしてあえて行程表に載せず、旅人を驚かそうと企んでいたのである。しかし、理事長からの指摘もあり、二つ加えて三つの歌碑を巡るよう行程表に記載し修正を加えた。

このバスでのみなかみ紀行の旅人は、当初十二名参加の予定であったが直前二名が不参加となった。特にその内、団長である林理事長が欠かせない所用が出来、出席出来なくなったことは誠に残念だった。団長から副理事長である浅井副団長に団長職を全権委任するので、遺漏のないよう旅団をしっかり纏めて欲しいとの強い要請があった。また、東京等、在住の参加者三名は直接電車でみなかみ入りした。さらに大会のみ出席の別働隊として、

ぬまづ観光ボランティアガイドも小柴清顧問含め五名参加した。したがって、沼津牧水会としては、総勢十八名の大会参加となった。

十一月十七日七時三十分、バスは千本山乗運寺駐車場をみなかみに向けて出発した。沼津駅に立ち寄り何名かの旅人を乗せ、東名、圏央道を順調に進み厚木ＰＡでトイレ休憩をとった。その後、圏央道を進むにつれ渋滞が始まった。事務局の大島さんがネットで調べてみると、鶴ケ島ＪＣＴ付近の関越道上で、トラックからの荷物落下があったための渋滞と判明した。この渋滞を抜けるのに一時間近く余分な時間を要してしまった。開会時間に間に合うか危惧したが、大会会場の松乃井には、ドライバーの巧みなハンドル捌きで、予定より二十分程度の遅れで到着することができ、昼食もゆっくり摂ることができた。

大会は、実行委員長を務める鬼頭春二みなかみ町長の挨拶で開会式典の幕が切って落とされた。続いて小野章一みなかみ町議会議長、榎本篁子沼津市若山牧水記念館館長の来賓挨拶があった後、牧水とみなかみ町との関わりが、映像で紹介された。

鬼頭春二町長

小野章一議長

榎本篁子館長

それによると、牧水は大正七年と十一年の二度、ここみなかみ町を訪れている。大正七年には、十一月十二日に上越線で沼田入りし馬車と徒歩で、谷川温泉や湯檜曾温泉を訪れた後、中山峠を越え、中之条に立ち寄り、暮坂峠を経て軽井沢入りしている。みなかみ町滞在八日間の旅であった。

再び訪れた大正十一年は、前回とは逆コースで草津から十月十九日、みなかみ入りしている。暮坂峠から四万温泉まで足を延ばし、渋川、沼田を経て法師温泉で旅の疲れを癒した。牧水の足跡図を見て驚いたのは、その法師温泉から八日間かけて徒歩で日光入りしたことである。

（注）この地図は沼田市生方記念文庫で平成 29 年 2 ～ 3 月に開催された企画展「若山牧水～利根沼田の路～」で使用された地図を元に作成しました。

この足跡図を眺めていて、私なりの新たな発見があった。牧水を語る時、牧水と酒は切っても切れない関係ではあるが、一方旅の立ち寄り先を見ると、その大半が有名な温泉地である。牧水は、酒とともに温泉もこよなく愛したのではないかと伺える。今後、温泉にまつわる短歌を検証し、「牧水と温泉」というテーマで企画展を開催するのも一興かなと思った。

その後、伊藤一彦氏のコーディネートによって「牧水・旅と歌」と題して馬場あき子と佐佐木幸綱の両氏を交えて鼎談（ていだん）が行われた。

まずは三者それぞれの牧水との出会いから話を進めた。その中で、馬場氏は、牧水が一夜を過ごした法師温泉に自身の新婚旅行で泊まったことがきっかけだと話され、息子感覚で接した喜志子の偉さなど夫婦論にまで及んだ。また佐佐木氏は、牧水は天性の短歌のリズムが身体の中心に自然に存在しそれが生命力になっているとの見解を示し、牧水と洋画家中川一政の関わりを話され、牧水の人となりを興味深く拝聴した。

続いて「若山牧水みなかみ紀行短歌大会」入賞者の選者解説と表彰式が行われ、大会はその幕を閉じた。

暫く休憩の後、夕刻から懇親会が始まった。以前は全国大会の後レセプションが行われ、「日本ほろよい学会」は別の時期に実施されていたが、ここ何回かは全国大会があるときは合わせて行われるようになり、今回もそのようにセットで行われた。

「日本ほろよい学会」の会長でもある佐佐木幸綱氏の挨拶の後、鏡割りが盛大に行われ、楽しいひと時が始まった。会が進む中、北海道から九州まで牧水ゆかりの地から参加した面々の自己紹介が始まった。

我が沼津牧水会は、浅井副団長が沼津をアピールし大いに歌い上げた。団長欠席のためその重責を担う責任感を、ネクタイ着用、金のカフスといった完璧なフォーマルウエアーな姿を拝見し強く感じた。ただ、沼津牧水会からの参加者は副団長と共に壇上に上がっていたので、その雄姿をカメラに収める事ができなかったことは誠に残念であった。

翌朝、ホテル前にて大会参加者全員で記念写真を撮った後別働隊と別れ、バス部隊は「源泉湯の宿 松乃井」に別れを告げた。電車で大会に参加した石田夫妻も今日一日は行動を共に出来るとのこと、ますます賑やかで楽しい旅になる予感を皆に与えた効果は大きかったと感じた。

最初に向かったのは、谷川岳方面に向かって杣道（そまみち）を五、六分行った所にある古くから谷川岳にまつわる山岳信仰の中心的役割を果たしてきた谷川冨士浅間神社である。みなかみ町重要文化財にも指定されているこの神社境内に牧水歌碑がある。牧水が大正七年谷川を訪れたことを記念して建てられたもので

わがゆくは山の窪なるひとつ路冬日光りて氷りたる路

と記されていた。

歌碑見学後直ぐ隣にある天一美術館を訪れた。天一美術館は、当初行く予定ではなかった。紅葉の季節は過ぎていても、水上に行くなら谷川岳を拝まなければと、ロープウェイで天神平行きを組み込んでいた。計画を進める中で、数年前、やはりこの沼津牧水会の旅行で宮島に渡り、宮島ロープウェイに乗るため山麓駅に行ったら点検のために、運行停止であったことを思い出した。また、東北地方や北関東のスキー場ロープウェイは、紅葉の時期が終わりスキーシーズンが始まる間の端境期（はざかいき）は安全運転のため、運行停止して点検整備する所が多いと聞いたことがあった。

そこですぐさまロープウェイ運行会社に電話を入れたところ、危惧が見事に的中した。そのようなことから、谷川岳行きは断念し天一美術館へ変更した。しかし、その後、歌碑訪問を追加した折、谷川冨士浅間神社が美術館に隣接していることがわかり、スケジュール的にはかえって好都合であった。

天一美術館は、藤島武二、中川一政、梅原龍三郎など著名な洋画家の作品を多く所蔵しており、中でも、岸田劉生の娘「麗子」をモチーフにした作品が数多く展示されていることで有名な美術館である。以前訪れた時、不思議に思ったことがあったので、居合わせた同行者に問いかけてみた。それは一点を除い

た他の作品は全て作品名に「麗子」が冠されている。しかし、ただ一点だけ「村娘図」と題している。その理由は何か。同行者達は作品を眺めながらあれこれ推論を加えていたが、結局結論を得ることが出来なかった。天一美術館は、入館の際ハーブティーを振舞ってくれ、何か温かいおもてなしを感じる美術館でもあった。

次に向かった所は、千葉と埼玉の県境から太平洋に注ぐ大河利根川、その源流に近い中川（地元ではそのように呼んでいる川）に掛かる小さな水上橋である。その水上橋の袂に牧水歌碑があるという。着いてみると、坂東太郎の名を彷彿させる急峻で、川底は大小ゴツゴツとした岩石に覆われており、そこを縫うようにして流れる一筋の川があった。牧水歌碑には

大渦のうづまきあがり音もなしうねりなだれて岩を掩へども

と彫られていた。大正七年、馬車に揺られて水上温泉へやって来た時詠んだものであるが、川を眺めていると百年の時を経ているとは感じさせない原風景がそこにあると感じた。

午前最後の訪問地は、ガラスのテーマパーク「月夜野ビードロパーク」である。ガラス工場見学に続いて「ガラスアート美術館」に入館した。美術館には様々な時代のものや様々な製法を用いた作品が数多く展示されていた。中でも彩色も含め陶磁器としか思えない作品に出会い、驚きとともにその制作方法に想いを馳せた。

旅の楽しみの一つは、牧水にあやかり酒を酌み交わしながらの昼食会である。いつもその場所の選定には気を使う。私は、寿司、天婦羅大好き人間の和食党だが、会の計画では、自分の趣向を封じて食事場所を決めている。今回は、イタリアン風パン生地で覆ったポタージュスープで人気の高い「レストランあすか」で摂ることにした。一同その形態に驚くとともに、ワイングラスを傾けながら、大いに楽しいひと時を過ごすことが出来た。

午後最初の訪問地は、私が数年前発見した（牧水愛好家は熟知しているだろうが）例の権現峠の歌碑である。歌碑には

利根の流域より名も知らぬ山を越えて吾妻川の峡谷に出づ、此處は雪なくてなほ黄葉殘りたり

雑木山登りつむればうす日さし
まろきいただき黄葉照るなり
このあたり低まりつづく毛の國の
むら山のうへに淺間山見ゆ

と記されていた。

再び、国道一四五号線通称日本ロマンチック街道をバスは走り、「ロックハート城」に到着した。「ロックハート城」は、スコットランドで現存していた本物の城を移築・復元したもので、その姿は勇壮そのものであった。このテーマパークは広大な敷地に城を中心に、様々な施設が点在しているので、時間の関係から自由行動とし、城を始め興味のある施設を幾つか重点的に観覧することにした。しかし、大半の旅人は城のみの観覧であった。

城に近づくとその前庭には、中世の衣装で着飾ったいくつかの若い女性達のグループに出くわした。どの娘達を見ても美しく見えるのは、年の為せることなのか、はたまた「化」と言う一文字のせいかと考えつつ入城した。

城内は展示場となっており、イングランド中世王国の高価な品々が展示されていた。しかし、その展示方法の雑多感は否めないと感じた。大島さんは、その展示物を見て、時代や人物に矛盾があると指摘し、言われてみればその通りだと思った。さすが学芸員以上の素養を持っているなと、大いに感心したものである。

水沢地方には二大名物がある。水沢うどんと水澤寺である。水澤寺は道を挟んで五徳山水澤観世音と五徳山水澤寺があるが、旅団一行が向かったのは、坂東十六番札所観世音の方である。ロックハート城を発って五十分後、バスは無事目的地に到着した。

この水澤観世音は、風水上のパワースポットとしても有名で、年間多くの旅人がご利益を求めて訪れるとのことです。予定では、三、四十段程の階段状の参道を通って本堂に入山する計画を立てた。参道のほぼ中程に中に入って釈迦像など鑑賞出来る立派な仁王門があり、是非この機会に見学をと思ったからである。

しかし、バスが大型ゆえ予定のコースを通ることが出来ず、先に駐車場に到着してしまったので、止むを得ず乗降を駐車場に変更した。駐車場から本堂までは起伏のない平坦な道故高齢者向き順路で、私たち旅人にとっては好都合だったのかも知れない。

それぞれが想い想いの願いを込めてお祈りし、パワーをいただいて石段街の温泉として有名な伊香保温泉へと向かった。石田夫妻は翌日の用事のため、暫く旅館で休息を取った後、渋川経由で帰京された。ぎりぎりの時間までお付き合いいただいたことに感謝している。

私たちが本日の宿とした「千明仁泉亭（ちぎらじんせんてい）」は、伊香保では歴史ある老舗旅館であり、旅館のご主人に伺った所、五百四十数年（端数は忘れた）前の創業だとのこと。徳冨蘆花（とくとみろか）がこよなく愛し定宿としていたことは知っていたが、牧水も宿泊したことがあると、昨日の大会の中で知って大変驚いた。それによると大正七年みなかみを訪れた際の、十一月十二日に宿泊したとのことである。私達が宿泊した日から遡り百年と六日前の事に、偶然とは言えない何か不思議な縁（えにし）を感じたものである。

この驚きはまた違った驚きも生じさせた。それは、驚きというよりも私の牧水観が間違っていたと実感させられた、というのが正しいかもしれない。牧水の旅は、山間（やまあい）の小さな安宿に泊まり歩いてのものと勝手に決め付け

ていたきらいがあった。今回の大会で配布された資料には、二回みなかみを訪れた際の旅館が二十軒近く記録されていた。それらの旅館を調べてみると、伊香保温泉の千明仁泉亭のように、宿泊した旅館はそれぞれの温泉地ではかなり老舗の名旅館ばかりであった。考えてみれば、高く評価される牧水短歌は、名湯名旅館に泊まり豊かな心が醸し出されてこそ産み出されたものかも知れないと感じた。

仁泉亭から一、二キロの所に紅い欄干の河鹿橋（じかばし）がある。そこは紅葉が有名なところで、その時期多くの人々が訪れる人気の高い紅葉スポットである。紅葉の時期にはライトアップしていると聞き、調べてみると、丁度私達が宿泊する日までとのことだった。旅館に着くとタクシーを予約すべくフロントにその旨伝えると、旅館のマイクロバスで送迎してくれると言う。夕食会の後、出かけることにした。河鹿橋に着いてみると、かなりの人出で賑わっていたが、残念なことに大半が枯れていた。ただ落葉しておらず、まだ木々に枯葉が残っており、その枯葉がライトアップの光で黄金色に映え、また違った雰囲気を醸し出していた。

伊香保温泉の名物である石段街に、着いた日行けなかったと翌早朝出かけた人もいたようだ。中には伊香保神社から更に足を伸ばし昨夜訪れた河鹿橋まで往復した元気娘もいたと聞く。

三日目も天候に恵まれて、旅人皆爽やかで和気藹々の出立であった。

伊香保保科美術館は、大正・昭和初期の作品を小林かいちや竹久夢二など作家ごとに分けた展示室と現代作家の作品を纏めた展示室で構成されており、中々見応えのある美術館であった。なかでも松本哲男のタージマハルは以前観賞した折り、強く心に残っていたので、再び対峙することを心待ちしていた。

またこの美術館からの眺望が素晴らしく、晴れていれば谷川岳や赤城山を一幅の絵として鑑賞できるラウンジがある。しかし、この日は晴れてはいたが、遠方には靄が掛かり、残念ながら見ることが出来なかった。

群馬県には上毛三山と呼ばれ愛されている有名な名山がある。榛名、赤城、妙義の三山である。その三山の麓には、これまた名高い神社を配している。その神社の一つ榛名神社が次の目的地である。

保科美術館に別れを告げて、暫くすると道は緩やかな上りとなる。二十分程上って行くとバスの右窓に湖が見えてくる。この湖が牧水が山上湖と命名した榛名湖である。榛名湖を過ぎると道は下り坂となる。やがて、右手に赤い大きな鳥居が見えてくる。そこが榛名神社参道入口である。バスは大きく左に切って道の両側に、土産物屋、飲食店、旅籠などが並ぶ広い参道を突き当たりにある随神門（ずいしんもん）近くまで一気に走り抜ける。車で行ける一番奥のドライブインに、ホテル出発前、電話でお願いし、土産物を買うことを条件としてパークする。

随神門から本殿までは七、八百メートル程あり往復四十分強かかる。前半緩やかな登り

だが後半は階段が多くなる。したがって、元気な旅人は本殿まで、足腰に自信の無い旅人は三重の塔付近までと案内をし、各自の判断で参拝した。参道の随所に七福神を祀ったパワースポットがあるので、本殿まで行けなくても御利益があると言われているが、大半の旅人は本殿まで行ったようだ。

御利益を授かったところで、バスは五十分程かけて南下し富岡市内に入った。富岡製糸場跡見学の前に、昼食を摂る計画を立てたが、食事場所選定に大変苦労した。富岡製糸場跡周辺には予約出来る店が少なく、しかも大型バスが駐車出来る所など皆無であった。そこでネットで調べたり、電話で問い合わせたりする中、どうにか条件に合う一軒の店が見つかった。蕎麦とかき揚げしかメニューにはないという蕎麦屋だが、なかなか評判も良いと聞き、早速電話し予約した。

当日行ってみると、電話では駐車可能とのことであったが、乗用車が三台停めてあり、バスを止めるスペースが無かった。店主にその旨を言うと、この辺りは取り締まりもないので道路脇に停めても大丈夫ですよとの返事であった。単一メニュー品を食したが、評判通りの美味い蕎麦ではあった。ただドライバーは路上に停めたバスが気になり味どころでは無かったようだ。

群馬県は蒟蒻芋（こんにゃくいも）の生産日本一の関係からかコンニャクに関する施設が多い。私たちも最後の訪問場所としてこんにゃくパークを予定していたが、昼食等のトラブルで思わぬ時間を弄（ろう）してしまったので、やむなく割愛することにした。したがって、みなかみ紀行の旅、最後の訪問地となった世界遺産富岡製糸場跡を訪ねた。富岡製糸場跡近くにはバスを止める所が無く、七分程歩いて入場した。

入って驚いたことには、まるで工事現場に迷い込んでしまったかのように思った。大規模改修や新しい建物の建築などあちこちで行われていた。中には全面ガラス張りの近代的建物も新築されており、全てが老朽化を防止する保全工事ではないように思った。この様な全面改修では、昔の面影を失いつつあるのではないかと感じた。果たして世界遺産に指定されたことが良かったのか、指定以前に訪れた時の情景を知っているだけに残念に思わざるを得ない。

昨今、日本は世界遺産ブームが各地で高まっているが、貴重な文化を後世に継承していくという原点に立ち返るよう、富岡製糸場跡の有り様を一つの警鐘として捉えるべきではなかろうか。

私たちは、牧水にあやかったみなかみ紀行の旅を満喫し、富岡ＩＣで高速に乗り一路沼津へとバスを進めた。沼津には、予定より十五分程遅れたが、旅人全員元気に帰着することが出来た。

沼津に着いてから、旅の疲れを癒すための直会を居酒屋「遊宇」で行なった。「遊宇」の親父は大変研究熱心で様々な料理を創作し私の舌を愉しませてくれる。そんな「遊宇」に、バスを降りていち早く向かった私を待っていたのは、大きなサプライズであった。

翌日欠かせない用事があるからと、伊香保から帰られた石田孜郎氏が、仕事先の富士から大磯に帰る途中、沼津で下車して私たちを迎えてくれたのである。

石田氏をはじめ、みなかみの地でも、それまで往き来の無かった人達が、あたかも何十年来の知己の如く心から交わる事が出来るのも、「牧水」というたった一人の偉大な人物のおかげと感謝しつつ「みなかみ紀行の旅」の報告とする。

なお、バスでの旅人は、浅井治、金子安夫、鈴木玲子、原悦子、久松貞幸、三宅芳則、宮本光徳、山下数高、長澤靖夫、大島葉子の十名。電車での旅人は、石田孜郎・多嘉子夫妻と有賀直子の三名。別働隊での旅人は、ぬまづ観光ボランティアガイドの小柴清、秋山鈴子、飯島美佐子、杉山ますみ、竹中玖美子の五名。以上合計十八名でした。

第65回 沼津牧水祭 短歌大会

十月七日(日)
午前十時三十分
沼津市立図書館
視聴覚ホール

平成三十年度の沼津牧水祭・短歌大会は、講師に「沃野」代表三枝浩樹氏を迎え開催された。氏は第六歌集『時禱集』により、平成二十九年の第二十二回若山牧水賞、同三十年の第五十二回迢空賞をダブル受賞された。

午前の講演は「牧水の魅力―歌集『黒松』の世界」。晩年の牧水短歌を読み解きながら、短歌を作る心、短歌を読み解く心を学んだ。

人妻のはしきを見ればときめきておもひは走る留守居する妻へ　土肥温泉雑詠

『黒松』巻頭歌を通して、老いて尚、初々しく純情で、純潔な牧水の心に触れた。

熾りたる炭火のさまをよしとおもふ猛く静けくてはかなきぞよき
山に生ふる木々はうつくしみな親し焼きて作れるこの炭もまた

自然と和合を遂げた晩年の牧水の歌。牧水の全てに向ける純粋な眼差しは崇高だ。

午後からは、出詠歌九十首中、全出席者の歌評。「秀歌を作りたいという身構えを捨て日常を素直に歌う心を」と、アドヴァイス。

講師選の「牧水賞」三首ほか七首、及び、互選賞入選歌十首のうちの三首を紹介する。

（本会会員　居山郁子）

牧水賞一席　富士宮市　林　充美
初仕事終へたる夫と耕運機　木陰に憩ふ父子のやうに

牧水賞二席　沼津市　勝呂綾子
筆忠実の亡夫らしからぬ筆無精スペアインクを送りましょうか

牧水賞三席　駿東郡小山町　湯山昌樹
あの人の住んだ社宅も壊されて企業の町の時代が終わる

選者賞　藤枝市　杉本弘子
芽起こしの雨音もなく降りそそぐ音信絶へし友を気遣ふ

駿東郡長泉町　伊藤　純
背負い来し大き風呂敷ひろぐれば60号の水彩あらわる

富士市　宮川良子
二人子は吊手はづせば飛び込みてクロール競ふ青蚊帳の海

沼津市　菅野隆江
ブランコに枯葉一枚ちさくゆれ秋と座れりひかりの中に

掛川市　村松建彦
抵抗をしなきゃならない時代など来てほしくない〈支持せず〉に○

千葉県山武市　立川目陽子
変色せるアドレス帳の一ページに母の施設の番号残る

田方郡函南町　古長谷達子
五十年働きづめの妹の好きなピザ焼き待つ盆休み

互選賞(市長賞)　静岡市　黒柳　爽
寝たきりの母が五十歳の子に問いき茶摘みの人手足りているかと

互選賞(市議会議長賞)　富士市　宮川良子
二人子は吊手はづせば飛び込みてクロール競ふ青蚊帳の海

互選賞(教育長賞)　沼津市　長野堯子
流氷のようなる夜の鰯雲月を残してまた流れゆく

第65回 沼津牧水祭

碑前祭・芝酒盛

十月二十一日(日)午前十一時

左から、三浦元生日向市監査委員事務局長・遠藤堅三吉備路文学館前館長・剱持秀喜中之条町議会副議長・榎本館長・頼重市長・渡部議長

雲一つない爽やかな秋晴れのもと、牧水の愛した千本松原の向こうに、五合目まで雪化粧した富士を仰ぎ見て、頼重(よりしげ)秀一沼津市長、服部裕美子教育長、渡部一二実市議会議長をはじめとする市議会議員有志のご臨席をいただき、日向、中之条、東京、愛知、岡山の牧水を顕彰する会の方々など、遠方からも多数のご参加をいただき、「沼津牧水祭・碑前祭」と「芝酒盛」が開催されました。

林茂樹理事長が開会の挨拶で、築山の造成に伴う松の伐採反対運動について、「一本の松も伐採されることなく、造成された」と報告し、「これからも沼津の美しい自然を守っていく」と力強く語られました。

来賓を代表して、頼重市長、服部教育長からご祝辞をいただきました。千本松原など沼津の美しい自然を守り、その美しい環境のもと、心豊かな子どもを育てたいとの決意表明でもありました。

榎本篁子館長の歌碑「幾山河」への献花、献酒が執り行われ、その後の挨拶では、牧水の翻訳本が海外で初めて発刊され、牧水の千本松原伐採への反対運動も、刊行の一因であることが紹介されました。

引きつづき、「中学生短歌コンクール」の表彰式が行われた。沼津市内十八校から一七九八首の応募があり、特選十首に選ばれた中学生が温かい拍手の中、表彰されました。

次に、牧水「沼津を詠んだ歌」の髙田紹代さんの独唱、「牧水のうた」を歌う会の合唱の歌声が響き渡りました。

花柳寿宗師が大悟法利雄氏朗詠による牧水短歌と詩をバックに華麗な日本舞踊を披露され、「碑前祭」の式典を終えました。

榎本館長とご来賓の方々による鏡開きにつづき、渡部市議会議長の乾杯の音頭で、いよいよ「芝酒盛」の開始です。夏を思わせる日差しの中、オリジナル弁当を肴に、地酒で、各地からの参加者の親交の輪が広がり、祭りは佳境に入りました。

再度登場した髙田紹代さんの牧水「酒の歌」の独唱、岳心流沼津愛吟国風会の詩吟、ぬまづ観光ボランティアガイド、沼津ハーモニカクラブ合同での合唱・合奏とつづき、みんなで歌おう「日本の歌・牧水の歌」では、牧水短歌の朗読と参加者の合唱で懐かしい歌が会場に広がりました。

沼津我入道漁業協同組合による売店では、魚や揚物、加工品が並び、富士山餃子も出店され、その横では「おしるこ」が売られて、参加者の憩いの場となっていました。会場の花莫座(ござ)の上では、持参の肴を囲んでの小宴会もあちこちで繰り広げられました。

最後を締めくくる「裾野五竜太鼓保存会」の勇壮な太鼓が鳴り響き、アンコールに応えたリーダーの粋な計らいで、来場者との太鼓の競演も行われ、楽しいひとときがさらに盛り上がりました。

余韻を残しつつ、来年の再会を願う金子安夫実行委員長の挨拶で「碑前祭・芝酒盛」はお開きとなりました。　（会員　山下数高）

第31回 沼津牧水祭
雛の歌会

三月三日(日)
午後一時三十分
沼津市若山牧水記念館ラウンジ

雛祭りの良き日に第三十一回「雛の歌会」が開催され、気持ちも何となく華やぎ、和やかな雰囲気の会場に、にこやかに池田はるみ先生が入ってこられました。今回の出詠者は五十九名、出席者は四十六名でした。

最初に林茂樹理事長の挨拶があり、次に司会進行役の永久保英敏理事から講師の池田はるみ先生の紹介がありました。

池田はるみ先生は、昭和二十三年三月五日、和歌山県に生まれ、大阪育ちとのこと。会が一層親しく盛り上がりました。先生は、NHK短歌の講師もなさり、「未来短歌会」の選者として活躍され、『奇譚集』『妣が国　大阪』『ガーゼ』『婚とふろしき』『南無晩ごはん』『正座』などの歌集やエッセイ集を出版されています。

先生は、ご自分のことを楽しく話してくださいました。大阪育ちで、相撲が大好きで、特に小錦、貴乃花の活躍に、日本には希望があると感じたことや家族を持てた幸せのことなど。なお、『正座』に収められている家族愛の二首に心惹かれました。

手の中に子がゐる時の短さや　わつと跳び越すにはたづみかな

赤ちやんは福の神なりわれに来てむーんと重いちひさなからだ

さて、先生が歌評で、心惹かれたと仰られた三首を紹介したいと思う。

臆病なキリンの顔に触れた手をポケットに突っ込む　あいつを赦す　鈴木健示

相手を赦すという意表をつく転換があり、口語の使い方も良い作品です。

半分は空に残して半分は地に敷きつめてポプラの黄葉　長野堯子

天と地を工夫して表現していてよい。

コミュニケーションスキル講座終了　我に寄り来る女生徒の手をつつむ　勝又十枝

講座を修了し、技術を習得した女生徒の手を先生が包み込んだ心が温まるうたです。

先生の歌評の中の言葉で、「短歌は情のものである」「歌の世界にダメなものはない」「意見に対しては自分と対峙し、自分を出して欲しい」「意見を鵜呑みにしない」「短歌は人間のあたたかな交流の場である」が印象に残った。

最後に「選者賞」に選ばれた十首のうち、先に紹介した三首のほかの七首を紹介する。

（本会会員　杉山治子）

正月のうからの義理を酒のみて果してゆきぬ新婚の子は　永久保英敏

初春の雪富士をろがみ立ち尽くす大きちからを秘める火の山　小山弘子

ふるさとを遠く嫁ぎしわれの娘にやさしき文をしたためし兄　飯田ふみ代

コンビニの明かりがとどくたんぼ道イタチのおやじ息災なりや　村松建彦

釣りあげし太刀魚の身はひきしまり一気に入れる包丁拒む　山田純子

鮮やけき苺の赤をたづさへて独居となりし友を尋ねき　三浦征江

深耕し寒ざらしたる如月の畑に　野菜の作付をする　東川勝範

文　化　講　座

初心者のための短歌講座

日　時　平成30年４月～平成31年３月
毎　月　第２土曜日　午前(全11回)
講　師　青　木　朝　子　氏

牧水記念館短歌会

日　時　平成30年４月～平成31年３月
毎　月　第２土曜日　午後(全11回)

牧水記念館俳句会

日　時　平成30年４月～平成31年３月　隔月第４日曜日　午後(全５回)
講　師　榎　本　好　宏　氏

書　道　講　座

日　時　平成30年４月～平成31年３月　毎月第３火曜日　午後(全９回)
講　師　成　田　真　洞　氏

サロン音楽の夕べ

沼津市若山牧水記念館ラウンジ

FIORIRE & SOLE 「地元の若手演奏家による演奏会」

日　　時：平成30年７月８日(日) 午後６時30分
出　　演：永井陽菜(ソプラノ)
　　久野絢子(フルート)
　　及川智史(ピアノ)
来 場 者：38人

古楽コンサートシリーズ 37
「A.ヴィヴァルディとJ.S.バッハの夕べ」
～フルート、ファゴット、チェンバロは仲良し～

日　　時：平成30年９月16日(日) 午後６時45分
出　　演：佐々木真(フルート)
　　興津　諒(ファゴット)
　　杉山佳代(チェンバロ)
来 場 者：100人

秋の宵に楽しむ「能の響き」
（共催：一般社団法人沼津倶楽部）

日　　時：平成30年10月13日(土) 午後６時30分
出　　演：桑田貴志(観世流シテ方)
　　寺井宏明(森田流笛方)
　　久田舜一郎(大倉流小鼓方)
来 場 者：59人

古楽コンサートシリーズ 38
「歌とチェンバロによるバロックの夕べ」

日　　時：平成31年３月16日(土) 午後６時45分
出　　演：加藤和子(ソプラノ)
　　真鍋　匡(テノール)
　　杉山佳代(チェンバロ)
来 場 者：97人

平成30年度事業報告

第32回　定時会員総会　平成30年5月18日(金)午後6時～7時

理事会　第1回(通算164回)　平成30年4月17日(火)午後6時～7時
第2回(通算165回)　平成30年5月18日(金)午後5時～5時15分
第3回(通算166回)　平成30年5月18日(金)午後7時～7時10分
第4回(通算167回)　平成30年7月26日(木)午後6時～6時25分
第5回(通算168回)　平成30年11月29日(木)午後6時～7時
第6回(通算169回)　平成31年3月1日(金)午後6時～7時

会　報　第31号　平成30年5月15日発行

館　報　第61号　平成30年9月10日発行
第62号　平成31年3月1日発行

1　調査研究事業

(1)　第19回「百草園牧水歌碑祭」へ参加(主催：東京牧水会)
日　時：平成30年8月26日(日)正午
会　場：東京都日野市百草 京王百草園　牧水歌碑前
参加者：金子安夫、磯崎剛、小出和夫、原悦子、三宅芳則、山下数高

(2)　第68回 日向市の「牧水祭」へ祝電(主催：宮崎県日向市)
日　時：平成30年9月17日(月)午前9時30分
会　場：日向市東郷町坪谷 若山牧水生家裏牧水歌碑前及び牧水公園「ふるさとの家」

(3)　第62回 暮坂峠「牧水まつり」へ祝電(主催：牧水詩碑保存会)
日　時：平成30年10月20日(土)午前11時
会　場：群馬県吾妻郡中之条町　暮坂峠

(4)　「大悟法利雄回顧展」オープニングセレモニーへ参加
(主催：清水町、清水町教育委員会)
日　時：平成30年10月23日(火)午後2時
会　場：清水町地域交流センター展示ホール
参加者：林茂樹、大島葉子

(5)　第12回「若山牧水顕彰全国大会」群馬県みなかみ大会
第16回「日本ほろよい学会」群馬県みなかみ大会
日　時：平成30年11月17日(土)～11月18日(日)
会　場：群馬県みなかみ町 源泉湯の宿 松乃井
参加者：浅井治、金子安夫、長澤靖夫、有賀直子、石田孜郎、石田多嘉子、小柴清、鈴木玲子、原悦子、久松貞幸、三宅芳則、宮本光徳、山下数高、大島葉子、ぬまづ観光ボランティアガイド4名

(6)　第85回 延岡市の「牧水歌碑祭」へ祝電(主催：若山牧水延岡顕彰会)
日　時：平成31年3月17日(日)正午
会　場：延岡市 城山公園内 牧水歌碑広場

2　第65回 沼津牧水祭の運営

(1)　短歌大会
日　時：平成30年10月7日(日)午前10時30分～午後4時
会　場：沼津市立図書館　視聴覚ホール
講　師：三枝浩樹氏(「沃野」主宰　第22回若山牧水賞受賞者)
応募短歌：90首
参加者：68人

(2)　碑前祭・芝酒盛
日　時：平成30年10月21日(日)午前11時～午後2時30分
会　場：千本浜公園 牧水歌碑前
参加者：444人

3　文学講演会及び文学講座等の開催

(1)　文化講演会「羽生善治 講演会」
(主催　一般社団法人沼津倶楽部、公益社団法人沼津牧水会、公益財団法人沼津市振興公社)
(共催　沼津市教育委員会、日本将棋連盟沼津支部)
(後援　沼津市)
日　時：平成30年4月25日(水)午後6時30分～8時10分
会　場：沼津市民文化センター大ホール
講　師：羽生善治氏
参加者：1,516人

(2)　第31回「雛の歌会」
日　時：平成31年3月3日(日)午後1時30分～4時
会　場：沼津市若山牧水記念館ラウンジ
講　師：池田はるみ氏(「未来」選者・編集委員)
応募短歌：59首
参加者：46人

(3)　初心者のための短歌講座
日　時：平成30年4月～平成31年3月
毎月第2土曜日 午前10時～12時
会　場：沼津市若山牧水記念館会議室
講　師：青木朝子氏
参加者：11回開催　延べ208人

(4)　牧水記念館短歌会
日　時：平成30年4月～平成31年3月
毎月第2土曜日 午後1時30分～3時30分
会　場：沼津市若山牧水記念館会議室
講　師：青木朝子氏
参加者：11回開催　延べ100人

(5)　牧水記念館俳句会
日　時：平成30年4月～平成31年3月
隔月第4日曜日 午後2時～4時30分
会　場：沼津市若山牧水記念館会議室
講　師：榎本好宏氏
参加者：5回開催　延べ77人

(6)　書道講座
日　時：平成30年4月～平成31年3月
毎月第3火曜日 午後1時～3時
会　場：沼津市若山牧水記念館会議室
講　師：成田真洞氏
参加者：9回開催　延べ81人

●平成30年度「書道講座」受講者作品展示
期　日：平成31年3月19日(火)～3月31日(日)
会　場：沼津市若山牧水記念館ラウンジ
入場者：240人

(7)　第29回「中学生短歌コンクール」募集・表彰
募集期間：平成30年5月1日(火)～7月31日(火)
応募短歌：1,798首(18校 1,798人)
入選短歌：49首
選　者：曾根耕一、青木朝子、永久保英敏、河本尚子
表　彰：平成30年10月21日(日)「沼津牧水祭・碑前祭」にて

(8)　音楽イベント
第1回　FIORIRE & SOLE 地元の若手演奏家による演奏会
日　時：平成30年7月8日(日)午後6時30分
会　場：沼津市若山牧水記念館ラウンジ
出　演：永井陽菜(ソプラノ)、久野絢子(フルート)、及川智史(ピアノ)
来場者：38人

第2回　古楽コンサートシリーズ37　A.ヴィヴァルディとJ.S.バッハの夕べ～フルート、ファゴット、チェンバロは仲良し～
日　時：平成30年9月16日(日)午後6時45分
会　場：沼津市若山牧水記念館ラウンジ
出　演：佐々木真(フルート)、興津諒(ファゴット)、杉山佳代(チェンバロ)
来場者：100人

第3回　秋の宵に楽しむ「能の響き」
日　時：平成30年10月13日(土)午後6時30分
会　場：沼津市若山牧水記念館ラウンジ
出　演：桑田貴志(観世流シテ方)、寺井宏明(森田流笛方)、久田舜一郎(大倉流小鼓方)
来場者：59人

第4回　古楽コンサートシリーズ38　歌とチェンバロによるバロックの夕べ
日　時：平成31年3月16日(土)午後6時45分
会　場：沼津市若山牧水記念館ラウンジ
出　演：加藤和子(ソプラノ)、真鍋匡(テノール)、杉山佳代(チェンバロ)
来場者：97人

4　その他の事業

(1)　協賛事業
第89期ヒューリック杯「棋聖戦」第3局
羽生善治棋聖対豊島将之八段
(主催：産経新聞社、公益社団法人日本将棋連盟、日本将棋連盟沼津支部、第89期将棋「棋聖戦」第3局開催実行委員会)
(特別協賛：ヒューリック株式会社)
(後援：沼津市、沼津市教育委員会、沼津商工会議所、沼津市商工会、沼津観光協会、沼津倶楽部、沼津牧水会、プロジェクトN)
対　局：平成30年6月30日(土)午前9時
会場：沼津倶楽部
前夜祭：平成30年6月29日(金)午後6時
会場：沼津リバーサイドホテル
こども将棋大会：平成30年6月24日(日)午前10時
会場：沼津市若山牧水記念館
指導将棋会：平成30年6月30日(土)午前10時
会場：沼津市若山牧水記念館
大盤解説会：平成30年6月30日(土)午後2時
会場：沼津市若山牧水記念館、沼津倶楽部
参加者数：前夜祭364人、大盤解説会196人、指導将棋会34人、こども将棋大会81人

公益社団法人沼津牧水会定款（抜粋）

第一条　この法人は、公益社団法人沼津牧水会と称する。
第二条　この法人は、主たる事務所を静岡県沼津市千本郷林一九〇七番地の一一に置く。
第三条　この法人は、歌人若山牧水を顕彰し、文学的業績の研究を深め、短詩型文学の普及を図り、もって、教育文化の振興に寄与することを目的とする。
第四条　この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
(1) 歌人若山牧水に関する調査研究
(2) 沼津牧水祭（短歌大会及び碑前祭）の運営
(3) 文学講演会、文学講座等の開催
(4) 文学に関する各種出版物の刊行
(5) 沼津市若山牧水記念館の管理運営の受託
(6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
第五条　この法人に次の会員を置く。
(1) 正会員　この法人の目的に賛同して入会した個人又は団体
(2) 賛助会員　この法人の事業を援助する個人又は団体
(3) 名誉会員　この法人に特に功労のあった者で、会員総会の決議をもって推薦されたもの
2　前項の会員をもって、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社員とする。
第六条　この法人の会員になろうとするものは、入会申込書を理事長に提出し、理事会の承認を受けなければならない。ただし、名誉会員に推薦された者は、入会の手続を要せず、本人の承諾をもって会員となるものとする。
第七条　この法人の事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、会員になった時及び毎年、会員は、会員総会において別に定める額を支払う義務を負う。

公益社団法人沼津牧水会入会金及び会費規程

第一条　この規程は、公益社団法人沼津牧水会定款第七条に基づき、入会金及び会費について定めることを目的とする。
第二条　定款第七条第一項に規定する入会金は、次のとおりとする。
(1) 正会員　一〇、〇〇〇円
(2) 賛助会員　三〇、〇〇〇円以上
第三条　定款第七条第一項に規定する会費は、次のとおりとする。
(1) 正会員　五、〇〇〇円（年額）
(2) 賛助会員　一〇、〇〇〇円以上（年額）

〈理事長〉林　茂樹　〈副理事長〉杉山　重義　浅井　治
〈理事〉保坂　輝夫　田中　和男　金子　安夫　四方　一弥　八十濱俊一
長澤　靖夫　青木　朝子　河辺龍二郎　永久保英敏　河本　尚子
〈監事〉鈴木　弘行　栗原　進
〈事務局〉大島　葉子　伊藤早智子　納谷　瑞穂　市川　悦子

編集後記

三十年余つづいた「平成」が終わり、新しい元号「令和」が始まりました。「平成時代」に「特別企画展」を十五回、「若山牧水顕彰全国大会」を二回、様々な講演会やコンサートなどを盛会裡に開催することができました。これからも皆さま方の応援にお応えできるように努力してまいります。

昨年十一月に群馬県みなかみ町で開催された「若山牧水顕彰全国大会」「日本ほろよい学会」に有志が参加しましたが、長澤靖夫理事が「紀行文」を寄稿してくださいました。

「沼津牧水祭・短歌大会」の講師に三枝浩樹先生を、「雛の歌会」の講師に池田はるみ先生をお迎えしました。「沼津牧水祭・碑前祭」は好天にめぐまれ、多くの方々にご参加いただき盛大に開催できました。「短歌講座・短歌会」「俳句会」「書道講座」及び「サロン音楽の夕べ」も好評でした。

昨年四月二十五日(水)に沼津市民文化センターで催された「羽生善治講演会」の主催者に加わりましたが、一五一六席の大ホールが満席となり、ご来場くださった方々に大変喜んでいただけました。

昨年で六回目となった将棋「棋聖戦」第三局が沼津倶楽部で開催されましたが、大盤解説会ほかのイベントが当記念館で催され、沼津リバーサイドホテルでの前夜祭にも大勢の参加者がありました。本年も六月二十九日(土)に対局、六月二十八日(金)に前夜祭が催されます。

本年度の諸事業については、当記念館へお問い合わせください。本年度も変わらぬご支援をお願い申し上げます。

■会報「幾山河」第32号 ■令和元年５月15日発行 ■編集・発行 公益社団法人沼津牧水会 ■〒410-0849 沼津市千本郷林1907-11
TEL・FAX〈055〉962-0424　E-mail：bokusui@thn.ne.jp　URL：http://web.thn.jp/bokusui/　■印刷 ㈱耕文社